

社会連携研究センターの取組事例について

社会連携研究センター長 神部 純一

「地方創生」が我が国の重要な課題となっています。大学には、地域・社会との連携の中で、その知的資源や人的資源を活用した地域課題に応える研究や人材育成等を通して、地方創生に貢献することが期待されています。



MOTフォーラム

この連携の拠点となるのが、平成24年に設置された「社会連携研究センター」です。センターでは、大学の資源を活かした「人材育成」を重要な機能として位置づけ、地域づくりの担い手を育成する「環境学習支援士養成プログラム」、自治体、NPO職員等を対象とした「地域活性化プランナー学び直し塾」、次世代経営者層等の事業創造力、実践力の向上を図る「ビジネスイノベーションスクール」等、多様な人材の育成を行っています。また、新商品開発への挑戦事例とMOT（技術経営）をベースにした取組事例を紹介し、地場産業再生人材の育成を図るMOTフォーラムの開催や、県内の蔵元と共同でアジア向けの日本酒の開発等、産学連携の



生涯学習フォーラム

機能することが求められています。こうした能力は、大学キャンパスの中だけで育成できるものではなく、地域社会や企業等との連携の中で、サービス・ラーニング、インターンシップ、社会体験活動等を通して育成されるものです。センターでは例えば、自炊生

活を楽しみたい学生等に対し、共同で環境こだわり農業を実践し、自炊のレシピを学び、生きる力を高めてもらうことを目的とした「滋賀大うちごはん農園」活動を行っています。



うちごはん農園

す。この活動は、都市型農園のビジネスモデルの試行としても位置づけられ、学生が農と食を実践的に学ぶ全国でも例がない取組です。また、上述したアジア向けの日本酒開発では、本学留学生10名が参加し、日本酒を試飲して味やパッケージなどについて様々な意見を述べたり、アジアからの訪日観光客を対象に日本酒



日本酒仕込

に関するヒアリング調査を行いました。さらに、留学生8名が参加し、七代目蔵元藤居鐵也氏、杜氏西澤拓也氏の指導により、アジア向けの日本酒の仕込みも

社会連携研究センターは、これからも大学と地域・社会をつなぐハブの役割を果たす中で、学内外の人材育成に積極的に取り組んでいきます。



学び直し塾